

地震ハザードマップを利用して防災意識を高めよう!!

巨大な地震が発生すると建物が倒壊し、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインが寸断され、火災が発生するなど、大きな被害に発展するおそれがあります。阪神・淡路大震災では、犠牲者の約8割以上が住宅などの倒壊による圧死といわれています。大きな地震から人命や財産を守るためには住宅などの耐震化が必要です。地震に備えるためには、地域で発生するおそれがある地震、建物被害などの可能性を十分に理解し、防災に対する意識を高めることが重要です。

地震の起こるしくみ

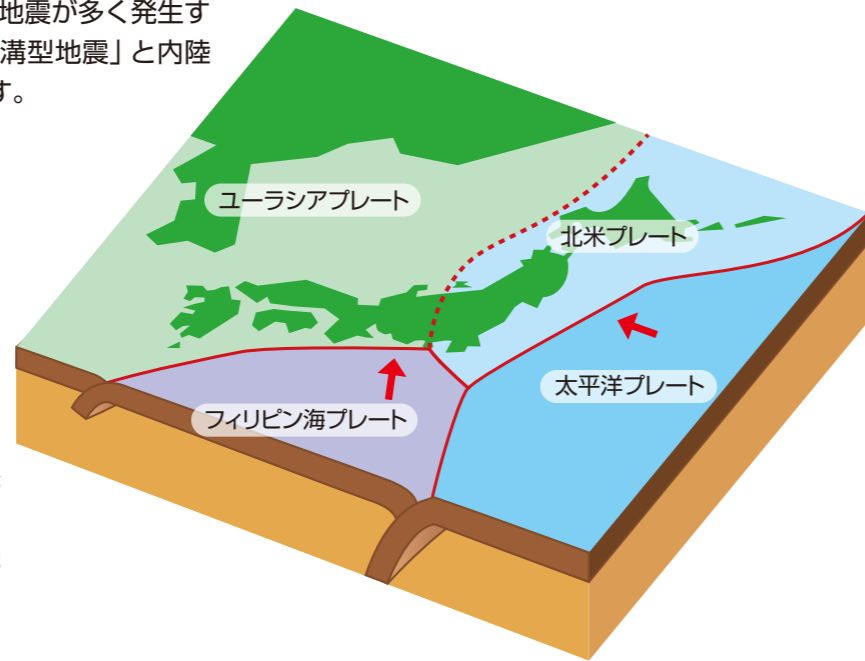
日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、海域の「海溝型地震」と内陸部の「直下型地震」の2種類に分けられます。

「海溝型地震」

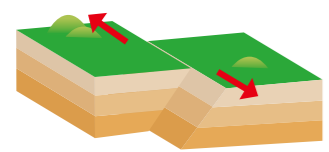
プレートの沈み込みにより起こる地震で、海側のプレートが陸側のプレートの先端を長い時間をかけて徐々に引きずり込み、蓄積されたひずみが限界に達したとき、耐えられなくなった陸側のプレートがはね上がり、地震が起こります。

「直下型地震」

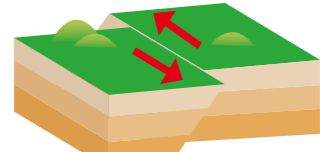
地下の岩盤に押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにある断層面に境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



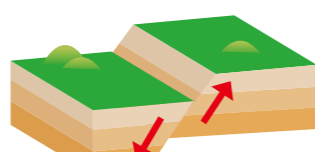
右横ずれ断層



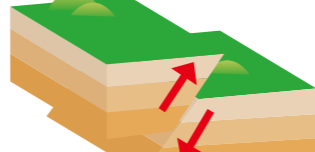
左横ずれ断層



正断層



逆断層



地震が起きたら

あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない (落下物や車が危険)
- ゆれがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づくな、門や扉、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらっときたら高台へ

家屋の耐震化や家具の固定など、日常から地震に備えましょう!!

震度とゆれ等の状況 (概要)

<p>0</p> <p>[震度0] 人はゆれを感じない。</p>	<p>1</p> <p>[震度1] 屋内で静かにしている人の中にはゆれをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>2</p> <p>[震度2] 屋内で静かにしている人の大半がゆれを感じる。</p>	<p>3</p> <p>[震度3] 屋内にいる人のほとんどがゆれを感じる。</p>
<p>4</p> <p>[震度4] ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きくゆれる。 ●座りの悪い置物が倒れることがある。</p> <p>震度4以上は防災行政無線でお知らせします</p>	<p>5弱</p> <p>[震度5弱] ●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがある。不安定なものは倒れることがある。</p>	<p>6弱</p> <p>[震度6弱] ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。</p> <p>※気象庁から【特別警報】発令</p> <p>●壁のタイルや窓ガラスが破壊、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p>	<p>6強</p> <p>[震度6強] ●はわないと動く事ができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。</p> <p>※気象庁から【特別警報】発令</p> <p>●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</p>
<p>5強</p> <p>[震度5強] ●物につかまらないうち歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>	<p>7</p> <p>[震度7] ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものがさらに増える。 ●耐震性の高い木造建物でもまれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れる物が増える。</p> <p>※気象庁から【特別警報】発令</p>		

地震発生! そのときどうする?

大きな地震が起きると誰でも驚き、平常心を失ってしまいます。あわてて外に飛び出したりするとかえって被害を大きくすることになりかねません。わが身や家族を守るため、冷静に状況を判断して行動することが肝心です。

家にいた場合

① まずわが身の安全を確保

立ってられないような大きなゆれを感じたら、頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠します。家具の転倒や落下物には十分注意しましょう。



⑤ ガラスの破片に注意

室内にガラスの破片や危険物が散乱しているときには、スリッパなどの室内履きで行動しましょう。



② 動けるようであれば、すばやく火の始末

動けるようであれば、すばやくガス器具やストーブなどの火を消しましょう。ガスは元栓を締め、電気器具はプラグを抜きましょう。



⑥ 正しい情報の入手

デマやうわさに惑わされることなく、ラジオやテレビ報道などで正しい情報を入手しましょう。また町の災害情報に注意を払ってください。



③ 戸をあけて出口の確保

ゆれでドア枠などが変形し、開かなくなってしまうことがあります。玄関や部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保しましょう。



⑦ 冷静に避難

ゆれがおさまっても、避難の指示などがあつたら、速やかに避難しましょう。避難の指示がなくても、延焼や建物倒壊の危険性を感じた時には、冷静に判断して避難しましょう。



④ あわてて外に飛び出さない

外では、ガラスや瓦、看板などが落ちてくる場合があります。大地震でも大きなゆれは1分程度です。あわてず状況を判断しましょう。



● オフィスや作業場では、防災責任者を決め、防災計画を作成し、それにそった行動をとります。

● 公共交通機関乗車時には乗務員、デパートや娯楽施設など人が集まっているところでは、係員の指示に従って行動しましょう。

路上にいた場合

窓ガラスや看板などが落ちてくる場合があります。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手で頭を守り、近くの公園や広い場所に避難しましょう。



車を運転中の場合

急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落として道路の左側に駐車し、エンジンを切りましょう。避難する場合にはキーをつけたままにし、ドアロックもしない。車検証や貴重品は忘れずに持ち出す。



エレベーターに乗っていた場合

ただちに各階のボタンを全て押し、停止した階で降りる。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け非常電話で救助を求める。



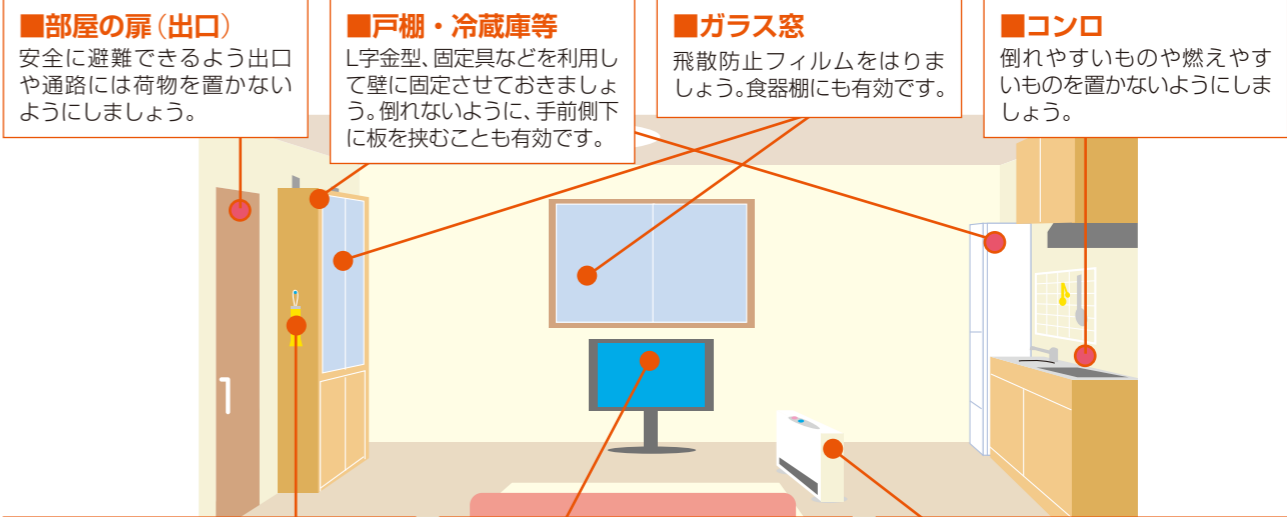
わが家の耐震化

地震から自分と家族の身を守るためには、自宅が地震に強いことが重要です。耐震性の基準が変わった昭和56年(1981年)6月以前に建てられた建物については、特に注意が必要なことから、町では木造住宅の耐震対策(耐震診断・耐震設計・耐震改修)費用の一部を補助する制度を設けています。まずは、専門の診断士による耐震診断を受けてみましょう。

耐震相談窓口：ふるさと整備課 電話 0254-27-2111

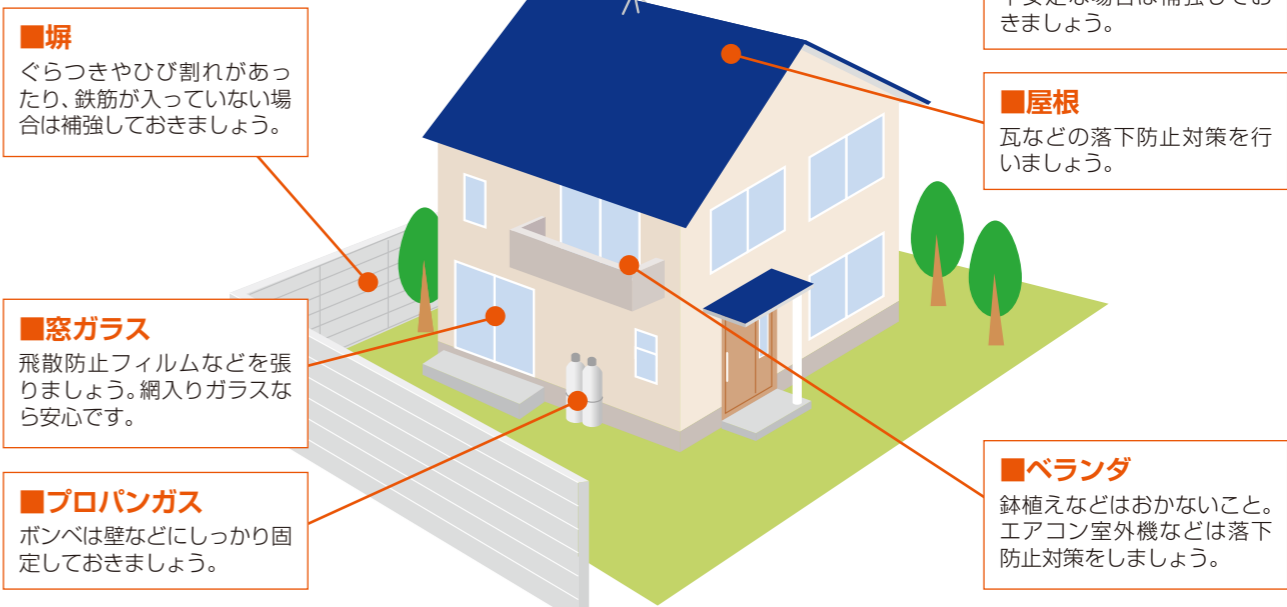
わが家の安全チェック

家の中の安全対策

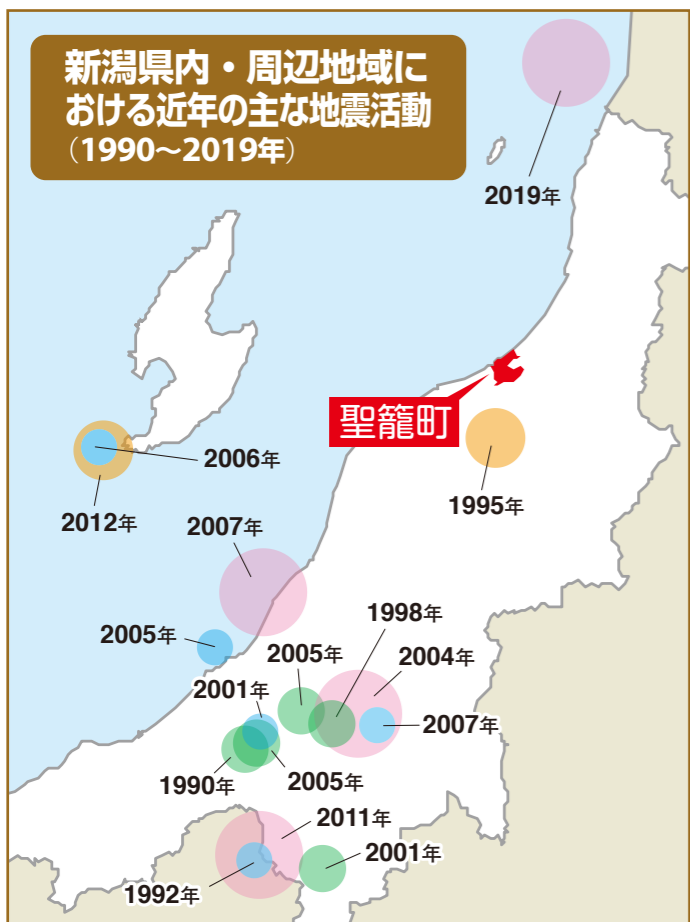
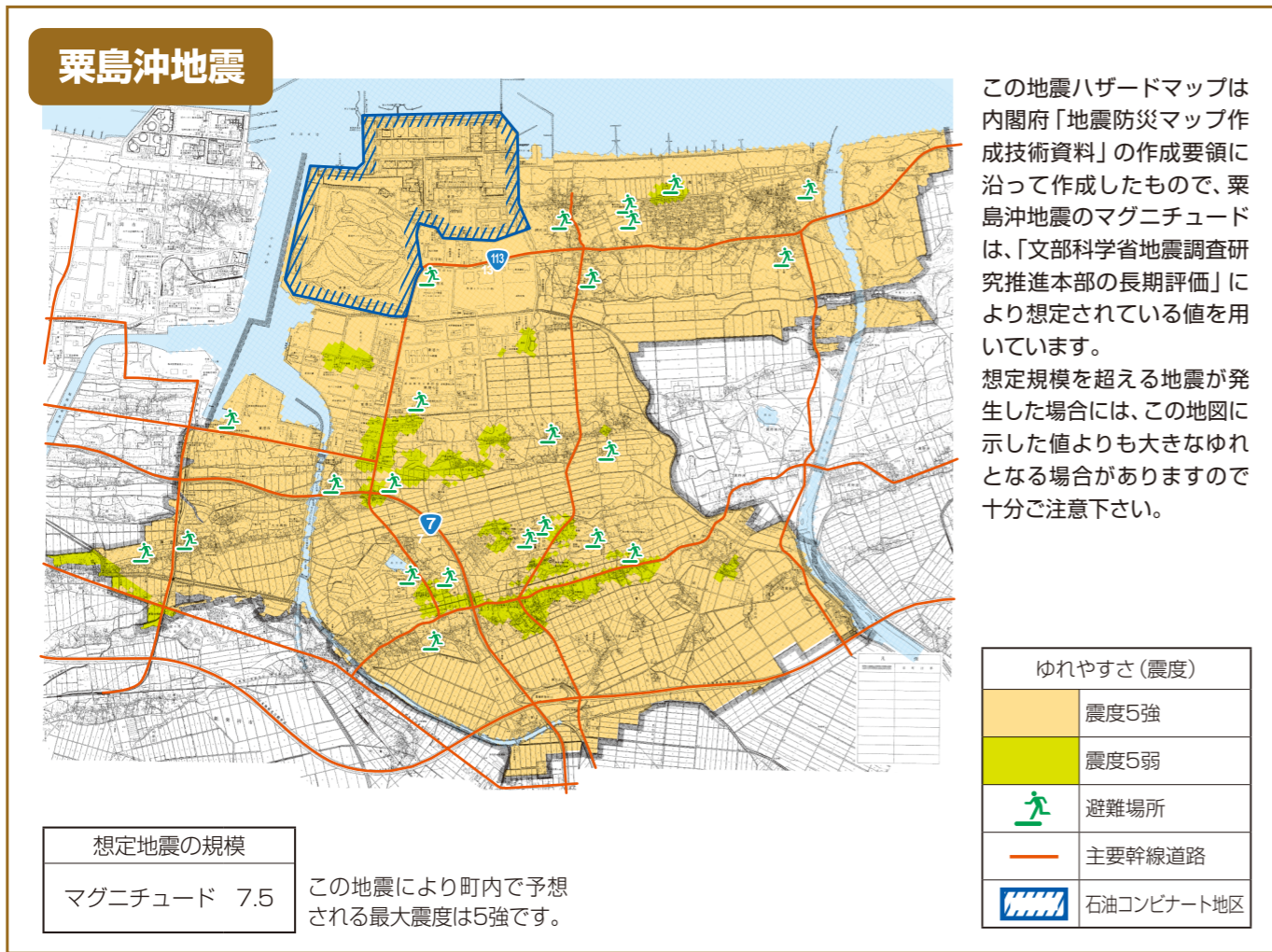


- 部屋の扉(出口)**
安全に避難できるよう出口や通路には荷物を置かないようにしましょう。
- 戸棚・冷蔵庫等**
L字金型、固定具などを利用して壁に固定させておきましょう。倒れないように、手前側に板を挟むことも有効です。
- ガラス窓**
飛散防止フィルムをはりましょう。食器棚にも有効です。
- コンロ**
倒れやすいものや燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- 要所には懐中電灯を**
暗闇では安全な行動は取れません。所定の位置に懐中電灯を設置しておきましょう。
- テレビ等の転倒・落下防止**
高い場所には置かないようにし、しっかりと固定するか、免震シートを張りましょう。
- ストーブ**
地震自動消火装置付きのもの。周囲には燃えやすいものを置かないようにしましょう。

家の外の安全対策



- 塀**
ぐらつきやひび割れがあったり、鉄筋が入っていない場合は補強しておきましょう。
- テレビアンテナ**
不安定な場合は補強しておきましょう。
- 屋根**
瓦などの落下防止対策を行いましょう。
- 窓ガラス**
飛散防止フィルムなどを張りましょう。網入りガラスなら安心です。
- プロパンガス**
ボンベは壁などにしっかり固定しておきましょう。
- ベランダ**
鉢植えなどはおかないこと。エアコン室外機などは落下防止対策をしましょう。



■新潟県内・周辺地域における近年の主な地震活動(1990~2019年 M>4.5)

年月日	地域	マグニチュード
1990年12/ 7	旧高柳町付近	M5.3
1995年 4/ 1	旧北蒲原南部郷付近	M5.5
1998年 2/21	旧東頸城郡	M5.2
2001年 1/ 2	旧高柳町付近	M4.5
2001年 1/ 4	旧中魚沼郡付近	M5.3
2004年10/23	新潟県中越地方	M6.8
2005年 6/20	旧高柳町、旧小国町	M5.0
2005年 8/21	旧小国町付近	M5.0
2005年11/ 4	新潟県中越沖	M4.8
2006年12/26	佐渡付近	M4.9
2007年 1/ 8	新潟県中越地方	M4.6
2007年 7/16	新潟県中越沖	M6.8
2011年 3/12	長野県北部	M6.7
2012年 2/ 8	佐渡付近	M5.7
2019年 6/18	山形県沖	M6.7

※気象庁データベースより作成

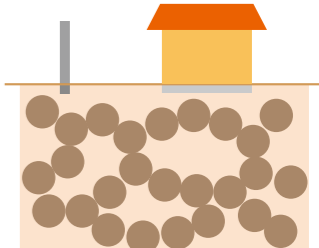


海岸や川のそばの比較的地盤がゆるく(締め固められていない)、地下水位が高い砂地盤等では液状化現象が起こりやすいと言われています。
聖籠町の地形の特徴である、海岸線に平行して何本も並ぶ「砂丘列」がありますが、中越地震・中越沖地震では、砂丘のふもとや砂丘間の低地部にて砂丘斜面等が崩壊し、液状化が原因の地盤沈下により家屋被害が多数発生しました。砂丘縁辺部では一般的に地下水位が高く、人工的に地形改修された可能性もあるため、液状化が起こりやすいので、砂丘周辺にお住まいの方は十分ご注意ください。

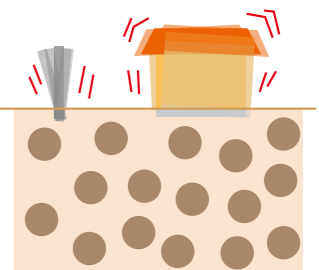
液状化とは…

地盤は、地震により激しい震動が加えられると砂粒子の支えあいも崩れて軟弱化し、液体状になります。このような現象を「液状化現象」と言います。この現象により、建物や電柱が傾いたり沈下したり、地中の下水管やマンホールの浮き上がりなどの被害が発生します。

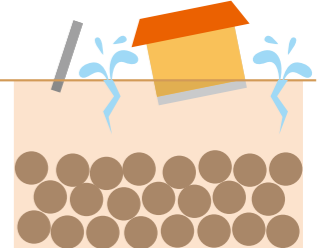
地盤の成り立ち(砂などの粒がお互にくっついて、その間に水がある状態)



液状化した地盤(地震で地盤がゆさぶられ、砂の粒同士が離れて、水に浮いた状態)



液状化現象により、建物は傾き、土管やマンホールなど地中に埋めてあるものが地面に浮き上がる。



バラバラになった砂の粒が沈んで、地面に水が出てくる。また、地面の裂け目から砂まじりの水が噴き出すことがあります(噴砂)。

凡例	
危険度の評価	
	液状化危険度がきわめて高い
	液状化危険度が高い
	液状化危険度は低い

※この液状化危険度マップは国土庁防災局「液状化地域ゾーニングマニュアル(平成10年度版)」の作成要領に沿って作成したものです。